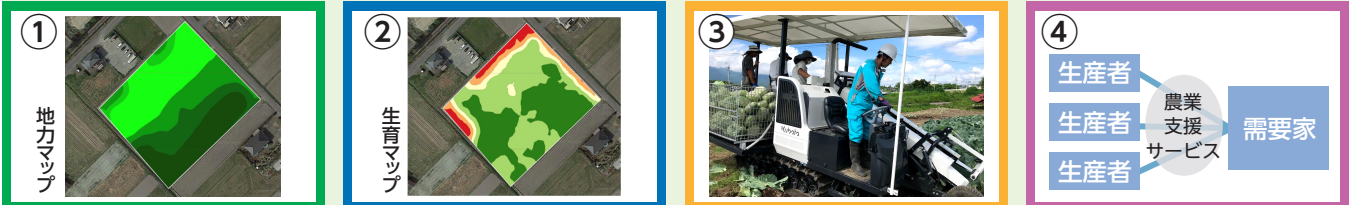


## 実証成果 中村農園、石井農園、須藤農園 (群馬県長野原町、埼玉県美里町、茨城県結城市)

**実証課題名** 需要家起点の農業支援サービスによる、加工業務用野菜のフード・バリューチェーン横断型の持続的生産体系の実証

**実証面積** 35.5ha(キャベツ 16.3ha、その他 19.2ha)うち実証面積キャベツ 5.2ha

**導入技術** ①衛星画像地力マップ+GPSナビキャスト(可変施肥システム) ②衛星画像による生育把握 ③キャベツ収穫機 ④農業支援サービス(シェアリング)



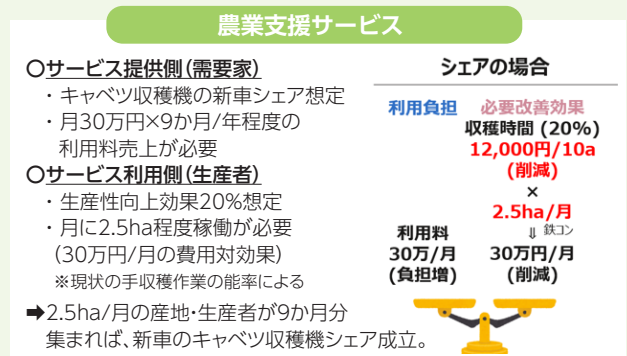
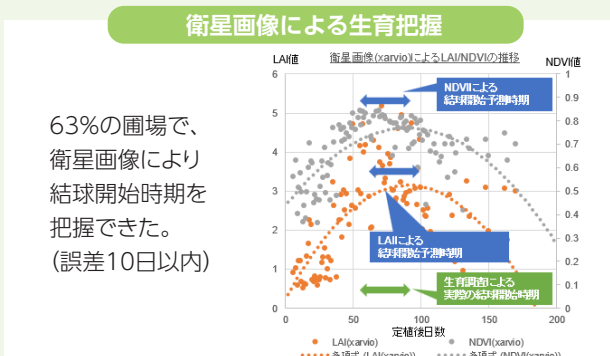
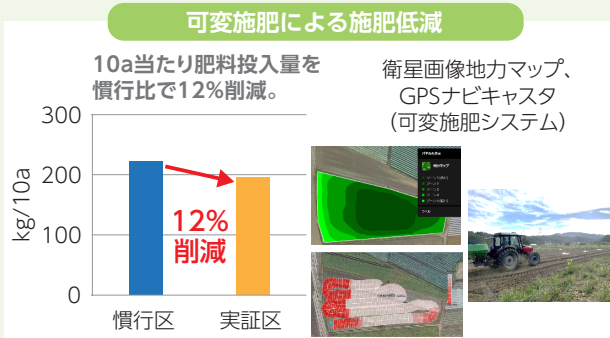
## 目標

- 衛星画像地力マップ+GPSナビキャストの導入により化学肥料使用量10%削減
- キャベツ収穫の機導入により10a当たり収穫作業時間20%削減
- 10a当たりのキャベツ利益:16%増加(総コスト:4%削減) ○農業支援サービスモデルの確立

## 1 目標に対する達成状況

- 衛星画像地力マップ+GPSナビキャストによる可変施肥で、化学肥料投入量を12%削減。  
収量・売上・品質ともに、圃場によるばらつきは大きいものの、ほぼ慣行と同水準を維持。
- 手作業慣行区(28人時/10a)に対し機械収穫機実証区(22人時/10a)で、21%削減。
- 実証区の10a当たりキャベツ利益:7%増加、総コスト:3%削減。
- 農業支援サービス成立のための定量要件を整理。

## 2 導入技術の効果



## 3 事業終了後の普及のための取組

- 農業支援サービス展開要件を踏まえて、契約生産者のシェアチーム組成など、サービス展開に向けて継続的に検討する。
- キャベツ収穫機以外にも、レタス収穫機やドローン、草刈り機など、その他ラインナップのサービスニーズ、サービス展開についても検討する。
- 需要家と生産者の連携モデルを構築し、需要家起点での農業支援サービスの体系的な確立を目指し、取組と情報発信。

## 問い合わせ先

(株)日本能率協会コンサルティング

金子 (e-mail: yasuhisa\_kaneko@jmac.co.jp) 柳沼 (e-mail: sosuke\_yaginuma@jmac.co.jp)